

# 常用は台数で28%減、出力で1%増

## 製品認証部が令和3年度導入分を集計

### 常用自家発電設備の設置実績

内発協製品認証部はこのほど、令和3年度に国内で導入された「常用自家発電設備の設置実績」に関するアンケート調査結果を取りまとめて公表しました。製品認証部の調査結果によると、常用自家発電設備は、台数ベースで345台（前年度比27.8%減）、設置容量ベースで13万1,125kW（前年度比0.7%増）でした。

直近12年度分の特徴として、常用自家発電設備の台数と設置容量の推移をみると、東日本大震災が発生した平成22年度以降大震災特需を受けて増加傾向へと転じましたが、ここ数年は減少傾向で推移しています。

アンケート調査対象は、内発協会員・非会員を問わず、自家発電設備のメーカーや、構成機器のディーゼル機関・ガス機関・ガスタービンの原動機メーカー等を対象として、「アンケート調査票」を送付し、各社から回答を得ました。ディーゼル機関、ガス機関、ガスタービンの原動機を搭載する「常用自家発電設備（常時自ら使用する自家発電設備）」を調査対象とし、納入時期は2021年4月1日から2022年3月31日までに導入された常用自家発電の設置実績を回答していただきました。

ただし、「電力会社等の発電事業用」、「送配電事業者等のように事業として他者へ電気を供給又は販売することを目的とした発電設備」、「非常専用発電設備」、「家庭用発電設備」については対象外とし、除外しています。

### 施設種類別の設置実績

施設種類別では、1位が工場等で74台、2位は病院等で64台、3位は**その他\***で50台、4位は店舗等で34台、5位は福祉施設等で30台の順でした。（5・6面に表）

**\*その他とは、代表的施設として、「下水処理場」「マンション」などがあげられます。**

### コージェネレーションシステムの設置実績

台数345台のうち、「排熱回収を行っているコージェネレーションシステム」は332台（前年度実績444台）でした。常用自家発電設備に占めるコージェネレーションシステムの比率は96.2%で前年度実績92.9%に比べ増加しました。

コージェネレーションシステムの比率を原動機種類別にみると、▼ディーゼル機関を搭載した常用自家発

電設備は9台のうち、「ディーゼルコージェネレーションシステム」は3台（構成比率33.3%）でした。

▼ガス機関を搭載した常用自家発電設備は333台のうち、「ガスエンジンコージェネレーションシステム」は326台（構成比率97.8%）でした。

▼また、ガスタービンを搭載した常用自家発電設備は3台のうち、「ガスタービンコージェネレーションシステム」は3台（構成比率100%）でした。（6・7面に表）

## 都道府県別の設置実績

都道府県別では、1位が東京都で40台、2位が大阪府で37台、3位が福岡県で26台、4位が愛知県、兵庫県、熊本県の各県で23台、7位が神奈川県で19台の順でした。

また、前年度実績に比べ設置台数が大幅に増加したのは、山形県で500%増、熊本県で475%増、岡山県で300%増でした。（8・9面に表）

## 原動機メーカー別の設置実績

台数345台のうち、ディーゼル機関を搭載したものは9台（前年度実績13台）、ガス機関を搭載したものは333台（同実績475台）、また、ガスタービンを搭載したものは3台（同実績8台）、でした。（10面に表）

## 使用する燃料種類別の設置実績

台数345台のうち、使用する燃料種類別に設置実績をみると、▼都市ガスなどの「気体燃料」仕様は278台（前年度実績422台）でした。台数全体の80.5%を占めました。原動機類別でみると、ガス機関275台、ガスタービン3台でした。

▼下水処理場、農場向け、「バイオ燃料」仕様は58台（前年度実績40台）でした。台数全体の16.8%を占めました。原動機類別でみると、ガス機関の58台でした。

▼ごみ処理場、製造工場向け、軽油や重油などの「液体燃料」仕様は9台（前年度実績16台）でした。台数全体の2.6%を占めました。原動機類別でみると、ディーゼル機関の9台でした。（20～23面に）

## 発電機メーカー別の設置実績

台数345台のうち、オーハツの発電機を搭載した常用自家発電設備は260台。台数全体の75.3%を占めました。出力（設置容量）順にみると、西芝電機の発電機を搭載した出力（設置容量）は53,625kW。容量全体の40.8%を占めました。（11面に表）